

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	志茂つくし保育園
施設所在地	北区志茂 5-5-4 ディアレスト 1F
法人名	株式会社ワン・ステップ
年間テーマ	音

1. 活動テーマ

<テーマ>

音

<テーマ設定理由（子どもの姿）>

自由遊びの際、玩具を入れていた段ボールを保育者が叩くと一緒に叩く姿があり、音に興味を持っているため。

2. 活動スケジュール

- ① 身近なもので音探し（7月）
- ② すいかの音を聞いてみよう（8月）
- ③ 紙コップビリビリ（12月）
- ④ ミュージックパットで音探し（2月）
- ⑤ 音楽会前日 どんな楽器があるかな？（3月）
- ⑥ 音楽会 本物の音に触れる（3月）

3. 環境をデザインする（活動のために準備した素材や道具、環境設定）

絵本（音のなる絵本・音に関する絵本）いつでも音に触れられるよう保育室に設置。朝の会や自由遊びの際など日常的に音に触れる時間を確保
すいか、紙コップビリビリ製作材料、保育
ポータブルスピーカー、ミュージックパット、音楽会奏者費用、音楽会会場費・
設備費、すくわく活動デジタル広告、活動研究用書籍
活動記録用：タブレット、デジタルカメラ、パソコン・周辺機器

4. 探究活動の実践

<活動内容>

① 音との出会い

絵本の読み聞かせでイメージを作ったあと、大小の段ボールとお米の袋をランダムに配置。段ボールをたたくと音がすること、米袋を叩くと音がすることだけ伝え、子ども主体で好きな音を探しに行く。状況をみて新聞紙で作ったバチを渡し、音を楽しむ。

② すいかの音を聞いてみよう

レジャーシートの上にすいかを置き、クラスごとにすいかを触ったり、手で叩いてみたり、ラップの芯で叩いてみたりしてすいかの音に触れてみる。

③ 紙コップビリビリ

絵本の読み聞かせをし、どんな音が聞き自分で考え答える。いろいろな音があることを知り興味を広げる。紙コップビリビリの使い方を保育者が見せ、紙コップビリビリを使って「赤鼻のトナカイ」をみんなで歌う。

④ ミュージックパットで音探し

保育者が使い方の見本を見せ、月齢や年齢に合わせてハイハイしたら？手で押したら？足で体重をかけたらどんな音がするのかを体感する。好きな音を選び、「幸せなら手をたたこう」の音楽に合わせて音を出す。

⑤ 音楽会前日 どんな楽器があるかな？

音楽会にはたくさんの楽器がくることを伝え、プロジェクターに映し出される画像と動画を見ながらどんな楽器があって、どんな音がするのかを保育者が問いかけ、子どもたちと一緒に考える。

⑥ 音楽会 本物の音に触れる

サクソフーン・スーザフォン・フルート・歌・ピアノ・トランペット・ヴァイオリン・の奏者が楽器を演奏する。指揮者体験、一緒に踊るコーナーで身体を動かし音を体験する。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

子どもの声・姿

①

- ・段ボールとお米の袋に興味を持ち、興味のある場所へ行き、笑顔でリズムをとりながら段ボールを手で叩いたり、新聞紙のバチで段ボールや米袋を叩いたり、米袋を足で踏んでみたり、バチでおもいっきり段ボールを叩く姿があった。
- ・バチは片手に持って叩く子が多く、2つバチを渡しても片手で叩こうとする姿があった。
- ・0歳児は1.2歳児が叩いている姿をみて一緒に叩いてみたり、歩いて様子を見る姿があった。また、喃語で話す姿もあった。
- ・歌を口ずさみながら叩いたり、リズムに合わせて叩こうとしていた。

②

- ・大きい！冷たい！と思ったことを言葉にする。
- ・すいかに耳を近づけ、すいかそのものの音を聴いてみる子がいた。
- ・手で叩いてみたり、ラップの芯でつくった棒で叩く姿があった。

③

- ・絵本の中に出てくる音を聞くと車は「ブブー」電車は「ガタンゴトン」雷の音は「怖い」と気持ちを表現する姿があった。
- ・保育者が「われわれは宇宙人です」と言うとビックリしてビリビリの声に笑う子ども達。
- ・友だちと向き合ってビリビリボイスを楽しむ姿があった。
- ・なぜこの音が出るのかと紙コップをのぞき込み、保育者に伝える姿があった。また、アルミホイルを破る姿もあった。

④

- ・ミュージックパットから音が出ると驚いた顔をしていた。
- ・一つ一つの音を確認するかのように何度も両足で音を出す姿があった。しばらくすると音が分かってきたのか、何度も音を出すことは減り、ジャンプをする姿があった。
- ・ミュージックパットを好きな場所へ運び音を出す姿があった。
- ・手で押すよりも足で押した方が音が大きい事に気づき足で音を出す姿があった。ジャンプして音を出す子もいた。
- ・0歳児は保育者の手を取りパットの上で細かくタップするように足踏みをしている姿が音を体全体で楽しんでいる様子だった。

⑤

- ・ 保育者がこの楽器は何か知ってる？と聞くと「ピアノ！ギター！」と言い、また知っている音楽が流れると曲名を答える姿があった。
- ・ 子どもたちの記憶の中にある楽器の名前を思い思いに言う。保育者が楽器の名前を紹介すると復唱し名前を言う姿があった。
- ・ 0歳児は聞いたことのある音楽がかかると笑顔になり、体を動かしたり、足でリズムを取る姿があった。
- ・ 白いスーザフォンの静止画を見て「トイレットペーパー！」と言う姿があった。
- ・ 同じ弦楽器のヴァイオリンを見てギターと言う子、サクソフォンを見てラップという子どもの姿があった。

⑥

- ・ 音楽会が始まると楽器の音を聞いている姿があった。
- ・ スーザフォンの音が近くまでいくと低音と大きな楽器が近づいてくることが怖ったのか「いやだー」と言う姿があった。
- ・ さんさん体操が流れると一緒に笑顔で踊る姿があった。
- ・ はたらくくるまと一緒に歌う姿があった。
- ・ 両手を上げたり、体をたくさん動かしたり手を叩いたりしてリズムにのっている姿があった。
- ・ 心地よい音楽の中で眠くなってしまったのか寝てしまう子もいた。



5.振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

子どもたちは何かに気付いたとき、分かったときなどたくさんの表情を見せられました。探究中は一見同じことを繰り返しているように見えても、じっくりと子どもの行動を観察すると少しずつ違う動きをしている事に気付きました。言葉には出ない心の声を聞けたような気がします。

音の探究は来年度も子どもたちと続けていきます。